

令和7年度警固屋中学校区研究推進計画

校番10 呉市立警固屋小学校

校長名 坂本 晴則

1 学校教育目標

「未来に挑む 自分を創る」

2 目指す児童生徒像

未来への展望を持ち自他の幸せを目指し、自立して貢献できる児童生徒

3 育成を目指す資質・能力（具体的姿）

資質・能力 設定した	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性・協働性
後期	課題解決のために、探究の過程の中で得た知識や技能、既有的知識・技能、自身の経験などと結び付けて考えることができるような、深い理解を伴った知識・技能を有している。	既有的知識・技能や探究の過程で得た知識・技能を活用して、情報の分析・整理などを行い、場面や状況に応じて課題解決の計画を立てたり、解決策を見出したりしている。	自らが設定した課題の解決に向けて、他者の考え方の違いを理解して柔軟に受け入れたり、他者と協力したりするなど、自らが調整し、試行錯誤しながら、自らの意思で取り組もうとしている。
中期	課題解決のために、活動や体験の中で得た知識や技能、自身の経験などと結び付けて考えることができるような知識・技能を有している。	既有的知識・技能や活動や体験で得た知識・技能を活用して、情報の分析・整理などを行い解決策について考えている。	設定した課題の解決に向けて、他者の考え方の違いを理解して柔軟に受け入れたり、他者と協力したりするなど、自らが調整して進んで粘り強く取り組もうとしている。
前期	課題解決のために、身近な人々、社会及び自然を自分とのかかわりでとらえるような知識・技能を有している。	具体的な活動や体験の過程で得た知識・技能を活用して、情報を整理し、まとめ表現している。	課題の解決に向けて、自分の考えを持ち、他者の考えを聞いたり、他者と協力したりするなどしてあきらめずに進んで取り組もうとしている。

4 研究主題等

(1) 研究主題

主体的に学び合う児童生徒の育成

～「協働的な学びの場」と「振り返り」を大切にしたい表現したくなる授業づくり～

（２）設定理由（校区の児童生徒の課題分析等）

本学園は、「未来に挑む 自分を創る」を学校教育目標とし、「未来への展望を持ち自他の幸せを目指し、自立し貢献できる児童・生徒」の育成を目指して、豊かな「学び」と豊かな「生き方」を基盤とした教育活動を展開してきた。

一昨年度より、授業改善に向けて、協働的な学びの場と振り返りに焦点を絞ると共に、自己肯定感を向上させる学びの土台づくりに取り組んできた。

また、「警固屋学園授業メソッド」の作成により、協働的な学びの場での教員によるファシリテートの在り方や発達段階に応じた振り返りのもち方等について、協議と実践を繰り返しながら教職員のベクトルをそろえてきた。

この２年間を土台に、今年度は総合的な学習の時間を中心とし生徒の「表現したくなる姿」のレベルアップを目指していきたい。

また、自己肯定感を高めるためにマンダラチャートの取組を行った。自分で目標を設定して目標を実現するために自己の考えをシートに記入し思考を整理する。それを定期的に振り返ることで、達成度と次への目標を視覚化させた。

１２月に学園全体で実施した標準学力調査の正答率について、目標値と基準値との差を、昨年度と今年度で比較した所、学年によっては「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」とともに上昇した学年もあるが、全国平均を下回った学年もあった。国語科では、「漢字の読み書き」「自分の考えを明確にして書いている」に課題が見られた。算数・数学科では、「知識・技能」に課題が見られる学年があるとともに、「文章題からの立式」、「図や言葉を用いた説明」などにも課題が見られた。２教科に共通しているのは、問題文において何を問われているのか理解できていないと考えられることである。

また、児童生徒アンケートにおける「主体性」「協働性」に関する結果は次の通りである。（９月）

	質問項目	小学校	中学校
主体性	授業では、自分の考えを積極的に伝えています。	85%	87.2%
協働性	授業では、友達と話し合う等して自分の考えを深めたり広げたりする。	92%	82.1%

「主体性」については、小中で振り返りの観点がそろっていなかったため、小中で数値にばらつきがみられた。振り返ることによって、子どもが自ら目標や「問い」をもち、これまで学習したことを活用して、目標に向かう試行錯誤する姿を目指したい。

「協働性」については、小中ともに肯定的評価が８０％を超えている。ペアやグループで話したりＩＣＴ機器を活用したりして、協働的な学習を進めているが、本来あるべき姿の「自ら課題を発見し、解決のために実際に調査したり聴き取りをしたりして、協働的に解決する」ことについても十分とは言えない。そのため、今後は、児童生徒が、よりよい解決方法を見出していくために、教師がファシリテートして、他者の意見を受け入れながら自分の考えを分かりやすく伝え表現しようとする姿を目指したい。

以上のことから、今年度は、「警固屋学園授業メソッド」の考え方を基に、質の高い協働的な学びの場と、質の高い授業の振り返りを設定して、表現しようとする意欲向上に向けた授業改善を今後も継続して進める。また、総合的な学習の時間を基盤とした教科を生かす教科横断的なカリキュラムの流れを構成し、児童生徒の主体性を引き出していきたい。自ら問いをもち解決に向けて情報を再構築し、他者へ伝える力を育てる。そのことにより、児童生徒が主体的に学び合う力を高め、学園で目指す資質・能力を育成していきたい。

（３）研究仮説

自己肯定感を高め、自分の考えを表現したくなるような場を設定し、他者の考えや思いを認め合う協働的な学びの場を設定することで「深い学び」の授業実践を積み重ねていけば、研究主題に迫ることができる。と考える。

また、今年度重点を置く振り返りでは授業に対する振り返りを児童生徒自らの言葉で表現させ、学びの達成感を味わわせる。振り返りの到達点をルーブリックで明確にし、自己の学習に対する取り組み方や到達度を確認させるとともに次時への学習の意欲づけにつなげていくことができるだろう。

さらに、各教科等で培った知識・技能を、生活科や総合的な学習の時間で活用できるカリキュラムを構築して取り組むことによって、警固屋学園の目指す児童生徒の資質・能力が育成できると考える。

5 研究内容

協働的な学びの場の設定と学びを見取る振り返りを充実させる。そのために他者の意見を取り入れて自己の考えを再構築しながら学習を進め、本時の振り返りを行うことにより学習の到達度を自己で認識し、学びを言葉で表現したくなるようにする。

また、個の実態に合わせて効果的にICTを活用して、学力向上に向け個に応じた学びを創る取組を通して、学校生活において主体的な活動を実践することにより生きる力へとつなげていく。

さらに、ウェルビーイング in 警固屋～みる・しる・ためす つながって生きる～ために体験と表現を行き来した総合的な学習の時間を基盤にして教科横断的なカリキュラムを構成し、各教科等の「見方・考え方」を働かせた深い学びへつながる授業づくりを図る。

部会毎に、次の内容で実施する。

●学びを育む部会

- ・振り返りの充実
- ・言葉で表現したくなる授業づくり
- ・警固屋学園メソッドの再構築

●人を育む部会

- ・マンドラチャートとキャリア・ログの活用
- ・異学年・異年齢との交流の充実
- ・地域交流（課題発見と解決に向けて今の自分にできること）

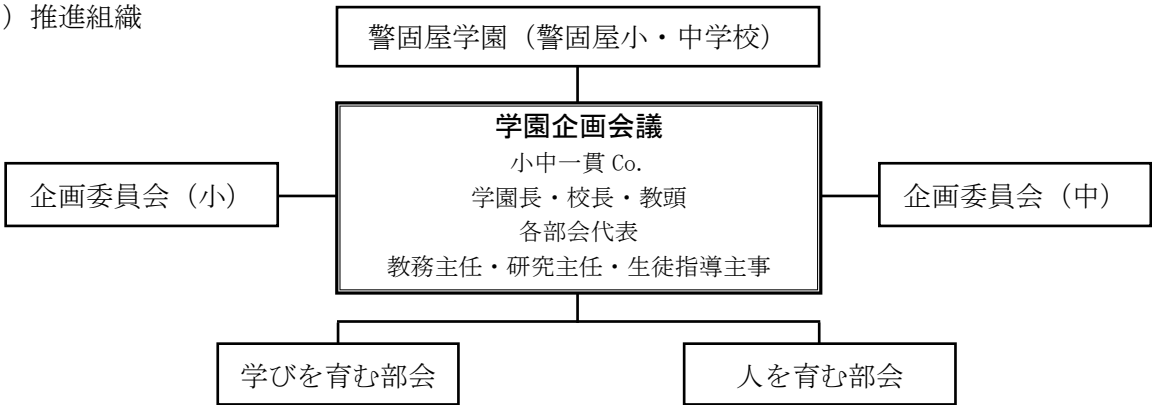
6 検証について

検証の視点	方法	検証の指標	現状値	達成目標
① 児童生徒の学力は向上したか。	国語科（基礎・活用）に関する標準学力調査の数値	全国平均との差	小学校 +0.7% 中学校 +6.3%	小学校 +13.9% 中学校 +8.0%
	数学科・算数科（基礎・活用）に関する標準学力調査の数値	全国平均との差	小学校 +14.6% 中学校 +2.0%	小学校 +13.7% 中学校 +8.0%
② 資質・能力を育成することができたか。	「主体性」に関する児童生徒アンケート	児童生徒の肯定的評価の割合	小学校 85% 中学校 87.2%	小学校 90%以上 中学校 90%以上
	「協働性」に関する児童生徒アンケート	児童生徒の肯定的評価の割合	小学校 92% 中学校 82.1%	小学校 90%以上 中学校 90%以上
	「表現力」に関する児童生徒アンケート	児童生徒の肯定的評価の割合	小学校 89% 中学校 82%	小学校 90%以上 中学校 90%以上

学習に関する意識調査 6月・12月【全学年対象】
標準学力調査（業者テスト）12月【全学年対象】

7 推進体制等

(1) 推進組織



(2) 一部教科担任制実施計画

ア 乗り入れ授業等 (中→小, 小→中)

- (中→小) ・国語科 小学校第6学年 (1学期実施)
・算数科 小学校第6学年 (2学期実施)
・外国語活動 小学校第5・6学年 (3学期実施)
・体育科 小学校第5・6学年 (2学期実施)

- (小→中) ・中学校補習授業 (夏季休業中に実施)

イ 小学校教科担任制

- ・警固屋小 第6学年 (理科・体育) 第5学年 (理科・体育) 第4学年 (理科・体育)
第3学年 (理科) 第2学年 (書写) 第1学年 (書写)

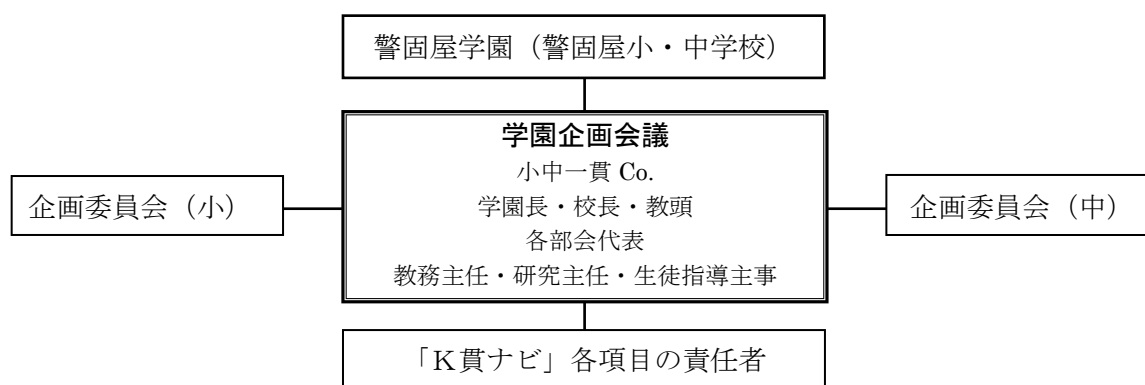
8 学園研修計画

【日程】	【研究】責任者：研究主任		小学校研究授業 責任者：小学校研究主任	中学校研究授業 責任者：中学校研究主任	【小中一貫教育】責任者：小中一貫 Co.
4/4 (金)	理論の共有	第1回 ○今年度の研究の方向性と研究主題の共有化 ・研究推進計画,カリキュラムマップ ○部会別研修 ・組織作り, 研修内容確認			・「K 貫ナビ」について ・学園運動会に向けて
4/25 (金)		第2回			・学園運動会係打ち合わせ ・配慮を要する児童生徒
7/31 (木)		第3回 ○「学びの変革」に係る研修 (報告) ○部会別研修 ・授業研究 単元の内容について			
8/28 (木)	実践研究	第4回 ○全国学力・学習状況調査課題分析			
時期 未定		第5回 ○部会別研修授業研究に向けて ・呉版単元構想シート・指導案検討			

		第6回 学園研究授業			
		第7回 学園研究授業			
2/5 (木)		第8回 ○標準学力調査課題分析 ○部会別研修 ・授業研まとめ ・「学習」に関する意識調査結果, ・カリキュラムマップ見直し			「K貫ナビ」の見直し (責任者同士) ※責任者同士で協議日 を別に設定してもよい。
3/12 (木)		第9回 ○「学びの変革」に係る研修(報告) ○部会別研修 ・本年度の成果と課題(協議) ○次年度研究推進計画について			次年度「K貫ナビ」(案) について(報告)

9 その他

(1) 小中一貫教育推進組織



(2) 行事・内容

- 学園運動会の実施
- 合同避難訓練の実施
- 異学年交流活動 2・7年 3・8年 4・9年 総合的な学習の時間に位置付けている。
- 学園通信「ひまねき」の発刊
- 小中合同の取組のマニュアル「K貫ナビ」に沿った取組の実施及び見直し。小中それぞれ各項目の責任者を決めている。

「K貫ナビ」概要	
夏休みの補習	中学生の夏期休業中の補習を実施し，小中教職員で学習指導にあたる。
読書貯金通帳	読書ページ数を記録し，各学年の目標達成をめざす。
掲示物等環境整備	作品交流・総合的な学習の時間の成果物の掲示など
学園朝会	学園の行事やいじめ撲滅キャンペーンの取組に関する内容。
いじめ撲滅キャンペーン	小学校計画委員会，中学校生徒会執行部からなる「いじめ防止委員会」を中心に，いじめ撲滅標語の作成と啓発，いじめ撲滅のための取組の実施を行う。
6年生部活動参加	6年生が中学校部活動の見学と体験を行う。

学園教育目標 「未来に挑む自分を創る」

<目指す児童生徒像>
未来への展望をもつ子 自他の幸せを願う子 自立して貢献する子

<研究主題>

主体的に学び合う児童生徒の育成

～「協働的な学びの場」と「振り返り」を大切にしたい表現したくなる授業づくり～

総合的な学習の時間

各教科

主体的

主体性・協働性

～を学びたい。
あれ？分からない。

伝えたい。
～が、分かった！

課題の設定

- ・ 振り返りからの課題設定
- ・ ゴールを意識した「めあて」
- ・ 問いの設定

振り返り

- ・ 「めあて」に沿った振り返り
- ・ 質の高い振り返り
- ・ シートの活用で見える化

教科等の本質

深い学び

知識
技能

思考力
判断力
表現力

整理・分析

協働的な学び

- ・ 他者との対話
- ・ 自分自身との対話
- ・ 教材との対話

例えば～。そうか。
いいね。でも。

対話的

ユニバーサルデザインの視点

焦点化 視覚化 共有化

学びを育む部会

各教科等の授業づくり
学力向上に向けた調査・取組

人を育む部会

自己肯定感を高める土台づくり
安心・安全な居場所づくり

コミュニティ・スクール

学園教育目標 「未来に挑む自分を創る」

＜目指す児童生徒像＞
未来への展望をもつ子 自他の幸せを願う子 自立して貢献する子

＜研究主題＞

主体的に学び合う児童生徒の育成

～「協働的な学びの場」と「振り返り」を大切にしたい表現したくなる授業づくり～

総合的な学習の時間

各教科

主体的

主体性・協働性

～を学びたい。
あれ？分からない。

課題の設定

- ・ 振り返りからの課題設定
- ・ ゴールを意識した「めあて」
- ・ 問いの設定

振り返り

- ・ 「めあて」に沿った振り返り
- ・ 質の高い振り返り
- ・ シートの活用で見える化

伝えたい。
～が、分かった！

教科等の本質

深い学び

知識
技能

思考力
判断力
表現力

整理・分析

例えば～。そうか。
いいね。でも。

協働的な学び

- ・ 他者との対話
- ・ 自分自身との対話
- ・ 教材との対話

対話的

ユニバーサルデザインの視点

焦点化 視覚化 共有化

学びを育む部会

各教科等の授業づくり
学力向上に向けた調査・取組

人を育む部会

自己肯定感を高める土台づくり
安心・安全な居場所づくり

コミュニティ・スクール